

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月9日

協議会名: 三条市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
越後交通株式会社	福沢線 (福沢～長沢駅跡)	三条市内の全中学校卒業生に対し、利用時間、利用方法、循環バスや自転車駐車場の案内などを記載したチラシを配布し、周知を図った。(H31.3)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	福沢線については、目標に掲げた日平均利用者数が5人に対し、平成30年10月～令和元年9月までの実績は4.9人/日と前年度の実績から0.5人/日減少し、目標をわずかに下回った。	下田中学校の保護者を対象としたアンケートや意見交換の中で、下田地区の通学手段であるバスの存続を求める声も聞かれたことから、短期的な利用者の減少のみを捉えるのではなく、下田地域における交通弱者に移動手段の確保といった観点から利用促進を図るよう、チラシの配布やホームページによる情報発信に努める。
	高校生通学ライナーバス (東三条駅～県央工業高等学校)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 令和元年6月に下田中学校3年生の保護者に高校生の通学手段に関するアンケートを行ったところ、複数回答可とした中でバスが59.7%、家族送迎が36.4%の結果となった。その一方で、同保護者との意見交換の中では、保護者の勤め先が東三条駅方面であること、時間が合えば高校まで送ることなど家族送迎に関する意見があった。これらのことから、家族送迎の実態が利用者減の一因となっているとも考えられる。	
	市内循環バス南コース (市内)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	目標に掲げた日平均利用者数が100人に対し、平成30年10月～令和元年9月までの実績は74.4人/日であり、前年度の実績から1.9人/日減少し、目標を下回った。※各コースの内訳(南コース 目標60人、実績47.7人)、(北コース 目標20人、実績11.3人)、(嵐北コース 目標20人、実績7.1人)、(嵐南コース 目標20人、実績8.3人)	
	市内循環バス北コース (市内)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 平成26年4月から運行を開始した嵐北コース・嵐南コースについては、一定期間を経過し徐々に浸透されつつあることが昨年度と比べて増加につながったものと捉えているが、10年以上前から運行している北コース、南コースについては利用ニーズの変化等により減少しているものと考えられる。	
	市内循環バス嵐南コース (市内)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	
株式会社エス・タクシー  三条タクシー株式会社  中越交通株式会社  日の丸観光タクシー株式会社	三条市デマンド交通 (三条市内)	デマンド交通をより多くの方から利用していただけるよう、高齢者が集まる場に足を運び、デマンド交通の制度の概要や利用方法、停留所等について話をする出張説明会を27回開催した。(H30.10～R1.9)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	平日の運行について、目標に掲げた日平均利用者数が350人に対し、平成30年10月～令和元年9月までの実績は276.4人/日であり、前年度の実績から1.4人/日減少し、目標を下回った。	高齢者が集まる機会を捉えたデマンド交通出張説明会の中で、デマンド交通の使い方や更なる利便性の向上等に関する意見をいただいたことから、こうしたニーズに応えるよう、利用者の目線に立った周知として新たな公共交通マップの作成やサービス内容の充実の検討などを進め、使い勝手が良く持続可能な運行を目指していく。
			A 計画どおり事業は適切に実施された。	また、土日の運行について、目標に掲げた土曜日の日平均利用者数100人、日曜日の日平均利用者数50人/日に対し、同期間の実績は、土曜日が86.7人/日、日曜日が52.7人となった。	
			A 計画どおり事業は適切に実施された。	土曜日は目標を下回ったものの、日曜日は目標を上回った。	
			A 計画どおり事業は適切に実施された。	土曜日の通院、週末の買い物を目的とした利用ニーズに応えるため、平成30年6月から運行を開始したところであるが、時々「土日も運行しているのか」という問合せがあるところを見るとまだまだ周知不足の実態があるため、引き続き、主な利用層である高齢者を対象とした周知・啓発が必要である。	

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月9日

協議会名：	三条市地域公共交通協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
<p>地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)</p>	<p>市内の中でも山間地域の多い下田地域を始め三条市全域における交通空白地域を生み出さないためのバス等の公共交通の維持存続は極めて重要であることから、次の系統において運行確保を図っている。</p> <p>I 福沢線 下田地域の交通拠点である長沢駅跡までの枝線の存続が重要であり、特に高校生の通学手段として不可欠であることから、同路線の運行確保を図っていく。</p> <p>II 高校生通学ライナーバス 昭和59年度にJR弥彦線(下田地区)が廃止された同地区高校生の通学手段を確保することが重要であり、路線バス八木ヶ鼻温泉線を維持存続し、さらには、東三条駅で乗り換えて市内の高校(三条高等学校・県央工業高等学校)への乗り換えなしの移動手段として、貴重な交通体系であり、同地域の中学生の保護者からも存続を望む声があることから、同路線の運行確保を図っていく。</p> <p>III デマンド交通 市内全域において、タクシー車両を活用して専用の停留所間をダイレクトで運行し、平日に限ると1日約280人、土日も含めると1日約210人の利用を得て当市における公共交通手段の中核として不可欠なものとなっていることから、今後も運行確保を図っていく。</p> <p>IV 市内循環バス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■北コース 主として井栗地区の小・中学生、高校生の通学手段として、また、東三条駅に接続することで新潟・長岡方面への通学に活用されており重要な交通手段となっているものの、本交通年度の下半期には利用者数を大きく減らしていることから、需要的に的確に対応し、効率的な運行を図っていく。</li> <li>■南コース 新幹線駅である燕三条駅、国道8号沿線のショッピングセンターなどを経由し、三条市の主要な施設への移動手段として、1日5便、土日も運行するなど同バスの中心的な運行を担い多くの市民の足として必要であることから、今後も同路線の運行確保を図っていく。</li> <li>■嵐北コース 東三条駅の北側の中心市街地を循環するコースであり、利用者の多い市役所や総合病院、個人医院を複数経由するなど特に嵐北地域の住民の生活における重要な移動手段であることから、今後も同路線の運行確保を図っていく。</li> <li>■嵐南コース 東三条駅の南側を循環するコースであり、嵐北コース同様総合病院、個人医院を複数経由するなど特に嵐南地域の住民の生活における重要な移動手段であることから、今後も同路線の運行確保を図っていく。</li> </ul>